



JR東労組 八王子地本

FAX HACHIOJI



ホームページ

発行責任者

本部派遣代表 佐藤英樹

2020/5/25 No.36

立川運転区分会が中央本部と意見交換②

労使共同宣言の破棄は戦術の誤りよって

労使共同宣言の破棄された事に対し、闘申1号を申し入れておきながら、交渉を行う前にストライキの予告をしてしまった。戦術的にも法的にもこれは間違いだった。この事に気づいた時から本部内での対立が始まった。18春闘直前当時、業務部長だった私は八王子地本定期委員会において強い決意のもと挨拶した。しかし吉川委員長(当時)は、私たちに隠れて長野地本や新潟地本に行き「ストライキはやらなくていい」「ストライキはやらない」等々吹聴していた事が後からわかった。八王子で語った俺の決意はどうしてくれるんだと怒り。ストを指導してきた委員長自らがスト破りを示唆していたのだ。

本部は不当労働行為と闘わないというのは全くの嘘

18年3月に八王子地本のFAXニュースにて不当労働行為に対する団体交渉を行ったという記事があり、支社の回答として「具体的な事象がわからないので回答できない」と書いてあった。3月11日の全地本委員長会議で職場の現実をもっと掴まないといけないし、それを持って団交に望むべきだと提起し、もう一度やろうと訴えてきた。しかし、本部にも職場のリアルは届かなかった。会社と様々な場で健全な議論のもと不当労働行為については常に攻めてきた。

八王子地本組合員としっかり議論していきたい

本部は夏季手当3.0ヶ月、全従業員一律5万円を要求した。しかし、要求額を決めるのも相当悩んだ。しかし、後押ししてくれたのは組合員だった。八王子地本・立川運転区分会の組合員ともぜひ議論したい。「職場に來い・組合員の声を聞け」と散々旧役員から言われてきた。しかし、組合員と話そうとしても結局そういう場を作ってもらえなかった。越えなくてはならない壁。様々整理しながら乗り越えていきたい。



↑意見交換を終えて 右から加藤書記長、山口中央執行委員長

約2時間の対談で、大変意味のある話し合いでした。相互の真摯な議論のもと、今まで知る事ができなかった真実が明らかになったと思います。しかし、重要なのはJR東労組組合員の未来です。今回の意見交換をもとに、18春闘をもう一度正しく総括しつつ、組合員に語られなかった真実を明らかにしていきます。新型コロナウイルス感染拡大が懸念されていますが、立川運転区分会の再確立を最優先課題に据えて参ります。組合員の皆様からの信頼をより強固なものとしていく為、分会長を筆頭として奮起して参ります。

八王子地本は、立川運転区分会とともに奮闘します！